

令和2年6月30日時点で実施されていた先進医療の実績報告について

令和2年度（令和元年7月1日～令和2年6月30日）実績報告より

	先進医療A	先進医療B	計
① 先進医療技術数（令和2年6月30日現在）	22種類	61種類	83種類
② 実施医療機関数（令和2年6月30日現在）	104施設※1	225施設※1	252施設※2
③ 全患者数	4507人	952人	5459人
④ 総金額（⑤+⑥）	約86.6億円	約12億円	約98.6億円
⑤ 保険外併用療養費の総額（保険診療分）	約30.2億円	約6.7億円	約36.9億円
⑥ 先進医療費用の総額	約56.4億円	約5.3億円	約61.7億円
⑦ 全医療費のうち先進医療分の割合（⑥／④）	65.1%	44.2%	62.6%

※1 1施設で複数の先進医療技術を実施している場合でも、1施設として計上している。

※2 1施設で第2項先進医療と第3項先進医療（高度医療）の両方を実施している場合でも、1施設として計上している。

令和2年6月30日時点で実施されていた先進医療の実績報告について

令和2年度（令和元年7月1日～令和2年6月30日）実績報告等より

	先進医療A	先進医療B	計
① 先進医療技術数（令和元年 6月 30日現在）	29種類	59種類	88種類
② 新規承認技術数	1種類	10種類	11種類
③ 保険収載技術数	4種類	1種類	5種類
④ 実施取り下げ技術数	－	7種類	7種類
⑤ 削除技術数	4種類	－	4種類
⑥ 先進医療技術数（令和2年6月30日現在）	22種類	61種類	83種類
⑦ 総括報告書受理数	－	11種類	11種類

< 過去5年間の実績 >

	実績報告 対象期間	技術数	実施医療 機関数	全患者数	総金額	保険外併用療養 費の総額 (保険診療分)	先進医療及び 旧高度先進医 療の総額	全医療費のうち先進 医療及び旧高度先 進医療分の割合
平成28年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績※1	H27.7.1～H28.6.30 (12ヵ月)	100	876施設	24,785人	約272億円	約86億円	約186億円	68.5%
平成29年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績	H28.7.1～H29.6.30 (12ヵ月)	102	885施設	32,984人	約278億円	約71億円	約207億円	74.6%
平成30年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績※2	H29.7.1～H30.6.30 (12ヵ月)	92	936施設	28,539人	約285億円	約45億円	約240億円	84.3%
令和元年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績※3	H30.7.1～R1.6.30 (12ヵ月)	88	1,184施設	39,178人	約352億円	約54億円	約298億円	84.6%
令和2年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績	R1.7.1～R2.6.30 (12ヵ月)	83	252施設	5,459人	約99億円	約37億円	約62億円	62.6%

※1 平成28年度診療報酬改定の際、一部の技術が保険導入又は廃止されたことに留意する必要がある。

※2 平成30年度診療報酬改定の際、一部の技術が保険導入又は廃止されたことに留意する必要がある。

※3 令和元年度診療報酬改定の際、一部の技術が保険導入又は廃止されたことに留意する必要がある。

令和2年6月30日時点における先進医療Bに係る費用

令和2年度実績報告(令和元年7月1日～令和2年6月30日)

整理番号	技術名	適用年月日	総合計(円)	先進医療総額(円)	平均入院期間(日)	年間実施件数(件)	実施医療機関数(機関数)
1	パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	平22.5.1	-	-	-	-	-
2	重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病に対する脳死ドナー又は心停止ドナーからの膵島移植 重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病	平22.11.1	5,218,866	3,556,190	5.0	1	1
3	ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法 肺がん(扁平上皮肺がん及び小細胞肺がんを除き、病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	平24.1.1	-	-	-	-	-
4	コレステロール塞栓症に対する血液浄化療法 コレステロール塞栓症	平24.11.1	-	-	-	-	-
5	NKT細胞を用いた免疫療法 頭頸部扁平上皮がん(診断時のステージがIV期であって、初回治療として計画された一連の治療後の完全奏功の判定から八週間以内の症例(当該期間内に他の治療を実施していないものに限る。))に限る。)	平25.3.1	-	-	-	-	-
6	C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変に対する自己骨髄細胞投与療法 C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変(Child-Pugh分類による点数が七点以上のものであって、従来の治療法(肝移植術を除く。))ではその治療に係る効果が認められないものに限る。)	平25.6.1	-	-	-	-	-
7	経皮的乳がんラジオ波焼灼療法 早期乳がん(長径が一・五センチメートル以下のものに限る。)	平25.8.1	-	-	-	-	-
8	インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	平25.8.1	13,568,068	10,533,109	5.5	10	7
9	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	平26.1.1	71,250,654	2,466,320	15.7	45	11
10	放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法 初発の中脳神経系原発性リンパ腫(病理学的見地からびまん性大細胞型B細胞リンパ腫であると確認されたものであって、原発部位が大脳、小脳又は脳幹であるものに限る。)	平26.6.1	16,401,953	13,612,397	6.6	15	14
11	FDGを用いたポジトロン断層撮影によるアルツハイマー病の診断 アルツハイマー病	平26.8.1	-	-	-	-	-
12	全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロピドグレル硫酸塩、ピタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腿骨頭壊死発症抑制療法 全身性エリテマトーデス(初回の副腎皮質ホルモン治療を行っている者に係るものに限る。)	平26.8.1	17,711,673	234,930	37.8	13	6
13	NKT細胞を用いた免疫療法 肺がん(小細胞肺がんを除き、ステージがIIA期、IIB期又はIIIA期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	平26.9.1	171,520	-	-	38	11
14	腹膜偽粘液腫に対する完全減量切除術における術中のマイトマイシンC腹腔内投与及び術後のフルオロウラシル腹腔内投与の併用療法 腹膜偽粘液腫(画像検査により肝転移及びリンパ節転移が認められないものであって、放射線治療を行っていないものに限る。)	平26.11.1	-	-	-	-	-
15	術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法 切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん(HER2が陽性のものに限る。)	平26.12.1	2,697,821	708,901	14.3	3	3

整理番号	技術名	適用年月日	総合計(円)	先進医療総額(円)	平均入院期間(日)	年間実施件数(件)	実施医療機関数(機関数)
16	リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェテル経口投与による寛解維持療法 特発性ネフローゼ症候群(当該疾病の症状が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、難治性頻回再発型又はステロイド依存性のものに限る。)	平27.2.1	169,270	-	-	6	2
17	周術期カルペリチド静脈内投与による再発抑制療法 非小細胞肺癌(CT撮影により非浸潤がんと診断されたものを除く。)	平27.6.1	-	-	-	-	-
18	コラーゲン半月板補填材を用いた半月板修復療法 半月板損傷(関節鏡検査により半月板の欠損を有すると診断された患者に係るものに限る。)	平27.7.1	-	-	-	-	-
19	LDLアフェレシス療法 閉塞性動脈硬化症(薬物療法に抵抗性を有するものであり、かつ、血行再建術及び血管内治療が困難なものであって、フォンタン分類ⅡB度以上のものに限る。)	平27.11.1	11,114,763	5,596,407	14.9	8	1
20	骨髄由来間葉系細胞による顎骨再生療法 腫瘍、顎骨骨髄炎、外傷等の疾患による広範囲の顎骨又は歯槽骨欠損(上顎にあっては連続した三分の一程度以上の顎骨欠損又は上顎洞若しくは鼻腔への交通が認められる顎骨欠損に限り、下顎にあっては連続した三分の一程度以上の歯槽骨欠損又は下顎区域切除以上の顎骨欠損に限り、歯槽骨欠損にあっては歯周疾患及び加齢による骨吸収を除く。)	平28.1.1	1,841,021	1,076,361	8.0	1	1
21	テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	平28.1.1	19,781,360	13,890,532	4.4	21	12
22	ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 再発翼状片(増殖組織が角膜輪部を超えるものに限る。)	平28.1.1	1,856,498	1,095,698	1.8	9	3
23	FOLFIRINOX療法 胆道がん(切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものに限る。)	平28.2.1	56,034,028	14,832,659	20.8	27	9
24	内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術 子宮頸がん(FIGOによる臨床進行期分類がⅠB期以上及びⅡB期以下の扁平上皮がん又はFIGOによる臨床進行期分類がⅠA2期以上及びⅡB期以下の腺がんであって、リンパ節転移及び腹腔内臓器に転移していないものに限る。)	平28.4.1	10,129,730	5,940,000	14.4	5	4
25	自家嗅粘膜移植による脊髄再生治療 胸髄損傷(損傷後十二月以上経過してもなお下肢が完全な運動麻痺(米国脊髄損傷学会によるAISがAである患者に係るものに限る。))を呈するものに限る。)	平28.4.1	1,978,500	600,000	39.0	1	1
26	陽子線治療 肝細胞がん(初発のものであって、肝切除術、肝移植術、エタノールの局所注入、マイクロ波凝固法又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が七点未満のものに限る。)	平28.6.1	-	-	-	-	-
27	重粒子線治療 肝細胞がん(初発のものであって、肝切除術、肝移植術、エタノールの局所注入、マイクロ波凝固法又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が七点未満のものに限る。)	平28.6.1	27,771,940	26,560,000	2.8	8	3
28	重粒子線治療 非小細胞肺癌(ステージがⅠ期であって、肺の末梢に位置するものであり、かつ肺切除術が困難なものに限る。)	平28.7.1	37,164,540	36,340,000	0.4	11	4
29	ゲムシタビン静脈内投与及び重粒子線治療の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、TNM分類がT4のものに限る。)	平28.10.1	32,587,200	30,060,000	7.7	9	3
30	ゲムシタビン静脈内投与、ナブパクリタキセル静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う膵臓がん	平28.10.1	23,706,266	757,500	23.8	6	1
31	治療抵抗性の子宮頸がんに対するシスプラチンによる閉鎖循環下骨盤内非均衡灌流療法 子宮頸がん(術後に再発したものであって、同時化学放射線療法に不応かつ手術が不能なものに限る。)	平28.11.1	-	-	-	-	-
32	ヒドロキシクロロキン療法 関節リウマチ(既存の合成抗リウマチ薬による治療でDAS28が二・六未満を達成できないものに限る。)	平28.11.1	4,688,818	2,336,868	-	30	1
33	水素ガス吸入療法 心停止後症候群(院外における心停止後に院外又は救急外来において自己心拍が再開し、かつ、心原性心停止が推定されるものに限る。)	平28.12.1	139,265,796	15,244,176	33.5	22	9

整理番号	技術名	適用年月日	総合計(円)	先進医療総額(円)	平均入院期間(日)	年間実施件数(件)	実施医療機関数(機関数)
34	トラスツズマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法 乳房外パジェット病(HER2が陽性であって、切除が困難な進行性のものであり、かつ、術後に再発したもの又は転移性のもにに限る。)	平29.2.1	11,272,596	8,243,906	-	5	1
35	術後のカペシタビン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法 小腸腺がん(ステージがⅠ期、Ⅱ期又はⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	平29.4.1	12,012,760	8,892,932	2.4	12	10
36	S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。)	平29.4.1	774,543	338,163	0.5	4	2
37	S-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん	平29.4.1	14,025,700	2,053,900	10.4	13	6
38(1)	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。) 【陽子線治療を実施する施設】	平29.6.1	19,095,530	16,000,000	8.8	10	5
38(2)	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。) 【外科的治療を実施する施設】	平29.6.1	-	-	-	-	-
39	131I-MIBGを用いた内照射療法 神経芽腫(COGリスク分類又はINRG治療前分類で高リスク群と診断されるものであって、化学療法及び造血幹細胞移植が行われる予定のものに限る。)	平29.7.1	6,144,940	595,000	66.5	2	1
40	シクロホスファミド静脈内投与及び自家末梢血幹細胞移植術の併用療法 全身性強皮症(ステロイド又は少なくとも一種類のステロイド以外の免疫抑制剤に抵抗性を有するものに限る。)	平29.8.1	34,561,798	3,745,000	70.8	6	1
41	自家骨髄単核球移植による下肢血管再生治療 バージャー病(従来の治療法に抵抗性を有するものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	平29.10.1	5,126,472	1,003,600	18.3	4	1
42	ニボルマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法 進行再発非小細胞肺がん(ステージがⅢB期、ⅢC期若しくはⅣ期又は術後に再発したものであって、化学療法が行われたものに限る。)	平29.11.1	178,962,941	147,442,593	6.8	40	17
43	術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	平30.2.1	127,330,688	327,009	2.2	297	25
44	TRPV2阻害薬経口投与療法 心不全(十三歳以上の患者に係るものであって、筋ジストロフィーによるものに限る。)	平30.4.1	46,258,332	335,900	104.4	20	9
45	重粒子線治療 直腸がん(術後に再発したものであって、骨盤内に限局するものに限る。)	平30.6.1	48,483,950	44,320,000	12.9	14	5
46	マルチプレックス遺伝子パネル検査(固形がん(根治切除が不可能又は治療後に再発したものであって、治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限る。)	平30.8.1	74,983,637	63,668,640	1.2	71	9
47	マルチプレックス遺伝子パネル検査 難治性固形がん(ステージがⅢ期若しくはⅣ期で手術が不能なもの又は治療後に再発したものであって、治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限り、肉腫を除く。)	平30.10.1	40,666,213	40,642,303	-	91	9
48	腎悪性腫瘍手術により摘出された腎臓を用いた腎移植 末期腎不全(慢性維持透析が困難なものに限る。)	平31.2.1	-	-	-	-	-
49	切除支援のためのマイクロコイル併用気管支鏡下肺マッピング法 微小肺病変	平31.2.1	72,492,153	2,632,850	10.6	49	7
50	反復経頭蓋磁気刺激療法 薬物療法に反応しない双極性障害の抑うつエピソード	平31.3.1	406,520	-	-	5	1
51	自己軟骨細胞シートによる軟骨再生治療 変形性膝関節症(軟骨欠損を伴うものであって、高位脛骨骨切り術の適応となるものに限る。)	平31.4.1	-	-	-	-	-

整理番号	技術名	適用年月日	総合計(円)	先進医療総額(円)	平均入院期間(日)	年間実施件数(件)	実施医療機関数(機関数)
52	自家末梢血CD34陽性細胞移植による下肢血管再生療法 下肢閉塞性動脈硬化症(疼痛又は潰瘍を伴う重症虚血を呈するものであって、維持透析治療を行っているものに限る。)	令1.7.1	3,642,482	1,499,372	14.0	1	1
53	不可逆電気穿孔法 肝細胞がん(肝内における長径三センチメートル以下の腫瘍が三個以下又は長径五センチメートル以下の腫瘍が一個であって、肝切除術又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が九点以下のものに限る。)	令1.8.1	4,223,060	2,891,430	7.3	3	1
54	プローブ型共焦点レーザー顕微内視鏡による胃上皮性病変の診断 胃上皮性病変	令1.11.1	1,060,390	-	-	11	1
55	ボツリヌス毒素の膀胱内局所注入療法 神経因性排尿筋過活動による膀胱機能障害(五歳以上十八歳未満の患者に係るものに限る。)	令2.1.1	-	-	-	-	-
56	イマチニブ経口投与及びペムブロリズマブ静脈内投与の併用療法 進行期悪性黒色腫(KIT遺伝子変異を有するものであって、従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	令2.2.1	-	-	-	-	-
57	偽腔拡大に対する血管内治療 大動脈解離(術後に偽腔が拡大したものに限る。)	令2.2.1	2,840,618	1,265,030	9.3	3	1
58	糞便微生物叢移植 再発性Clostridioides difficile関連下痢症・腸炎	令2.3.1	-	-	-	-	-
59	周術期デュルバルマブ静脈内投与療法 肺尖部胸壁浸潤がん(化学放射線療法後のものであって、同側肺門リンパ節・縦隔リンパ節転移、同一肺葉内・同側の異なる肺葉内の肺内転移及び遠隔転移のないものに限る。)	令2.3.1	-	-	-	-	-
60	マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行性再発固形がん(非小細胞肺癌、乳がん、胃がん、大腸がん、膵がん又は胆道がんに限る。)	令2.4.1	1,483,240	1,120,000	2.5	2	1
61	肺動脈自律神経叢除神経療法 肺高血圧症(薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	令2.6.1	-	-	-	-	-
合 計			1,200,958,848	532,459,676	/	952	221

※未実施により実績報告がないものは「-」としている。

令和2年6月30日時点における先進医療Bの

終了予定日、計画時患者数、登録症例数、協力医療機関数及び年間実施件数

告示番号	先進医療技術名	申請医療機関名	適用年月日(再掲)	終了予定日	計画時患者数	登録症例数	協力医療機関数	年間実施件数 (令和元年7月～令和2年6月までの実)
1	パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵巣がん又は原発性腹膜がん	埼玉医科大学国際医療センター	平22.5.1	令3.5.31	654	655	41	-
2	重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病に対する脳死ドナー又は心停止ドナーからの膵島移植 重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病	公立大学法人福島県立医科大学 附属病院	平22.11.1	令2.6.11	20	9	5	1
3	ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法 肺がん(扁平上皮肺がん及び小細胞肺がんを除き、病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	静岡県立静岡がんセンター	平24.1.1	令3.12.31	800	804	49	-
4	コレステロール塞栓症に対する血液浄化療法 コレステロール塞栓症	独立行政法人 地域医療機能推進機構 仙台病院	平24.11.1	令3.3.31	35	34	12	-
5	NKT細胞を用いた免疫療法 頭頸部扁平上皮がん(診断時のステージがIV期であって、初回治療として計画された一連の治療後の完全奏功の判定から八週間以内の症例(当該期間内に他の治療を実施していないものに限る。))に限る。	千葉大学医学部附属病院	平25.3.1	令5.3.31	66	23	0	-
6	C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変に対する自己骨髄細胞投与療法 C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変(Child-Pugh分類による点数が七点以上のものであって、従来の治療法(肝移植術を除く。))ではその治療に係る効果が認められないものに限る。)	山口大学医学部附属病院	平25.6.1	令4.3.31	34	3	0	-
7	経皮的乳がんラジオ波焼灼療法 早期乳がん(長径が一・五センチメートル以下のものに限る。)	国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院	平25.8.1	令5.7.31	372	372	8	-
8	インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	国立研究開発法人国立がん研究センター東病院	平25.8.1	令8.3.18	38	38	17	10
9	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	慶應義塾大学病院	平26.1.1	令7.5.26	225	187	12	45
10	放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法 初発の中脳神経系原発性リンパ腫(病理学的見地からびまん性大細胞型B細胞リンパ腫であると確認されたものであって、原発部位が大脳、小脳又は脳幹であるものに限る。)	埼玉医科大学国際医療センター	平26.6.1	令11.9.29	130	122	29	15
11	FDGを用いたポジトロン断層撮影によるアルツハイマー病の診断 アルツハイマー病	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター	平26.8.1	令2.10.31	190	196	10	-
12	全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロビドグレル硫酸塩、ピタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腸骨頭壊死発症抑制療法 全身性エリテマトーデス(初回の副腎皮質ホルモン治療を行っている者に係るものに限る。)	九州大学病院	平26.8.1	令2.9.30	150	0	10	13
13	NKT細胞を用いた免疫療法 肺がん(小細胞肺がんを除き、ステージがIIA期、IIB期又はIIIA期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	独立行政法人 国立病院機構 名古屋医療センター	平26.9.1	令2.9.30	56	58	14	38
14	腹膜偽粘液腫に対する完全減量切除術における術中のマイトマイシンC腹腔内投与及び術後のフルオロウラシル腹腔内投与の併用療法 腹膜偽粘液腫(画像検査により肝転移及びリンパ節転移が認められないものであって、放射線治療を行っていないものに限る。)	国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院	平26.11.1	令6.7.31	75	75	0	-
15	術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法 切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん(HER2が陽性のものに限る。)	静岡県立静岡がんセンター	平26.12.1	令8.3.26	130	38	48	3
16	リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法 特発性ネフローゼ症候群(当該疾病の症状が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、難治性頻回再発型又はステロイド依存性のものに限る。)	神戸大学医学部附属病院	平27.2.1	令3.1.31	80	79	20	6
17	周術期カルペリナド静脈内投与による再発抑制療法 非小細胞肺がん(CT撮影により非浸潤がんとして診断されたものを除く。)	大阪大学医学部附属病院	平27.6.1	令4.10.31	335	335	9	-
18	コラーゲン半月板補填材を用いた半月板修復療法 半月板損傷(関節鏡検査により半月板の欠損を有すると診断された患者に係るものに限る。)	大阪大学医学部附属病院	平27.7.1	令3.12.31	35	11	0	-
19	LDLアフェレシス療法 閉塞性動脈硬化症(薬物療法に抵抗性を有するものであり、かつ、血行再建術及び血管内治療が困難なものであって、フォンタン分類II B度以上のものに限る。)	公立大学法人 横浜国立大学附属病院	平27.11.1	令3.10.31	35	28	0	8
20	骨髄由来間葉系細胞による顎骨再生療法 腫瘍、顎骨骨髓炎、外傷等の疾患による広範囲の顎骨又は歯槽骨欠損(上顎にあっては連続した三分の一程度以上の顎骨欠損又は上顎洞若しくは鼻腔への交通が認められる顎骨欠損に限り、下顎にあっては連続した三分の一程度以上の歯槽骨欠損又は下顎区域切除以上の顎骨欠損に限り、歯槽骨欠損にあっては歯周疾患及び加齢による骨吸収を除く。)	名古屋大学医学部附属病院	平28.1.1	令6.7.21			0	1
21	テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限り。)	杏林大学医学部附属病院	平28.1.1	令6.7.10	146	77	36	21
22	ハイバードライト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 再発翼状片(増殖組織が角膜輪部を超えるものに限る。)	国立大学法人富山大学附属病院	平28.1.1	令5.3.31	40	21	9	9
23	FOLFIRINOX療法 胆道がん(切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものに限り。)	東京大学医学部附属病院	平28.2.1	令3.9.5	35	35	8	27

告示番号	先進医療技術名	申請医療機関名	適用年月日(再掲)	終了予定日	計画時患者数	登録症例数	協力医療機関数	年間実施件数(令和元年7月～令和2年6月までの実績)
24	内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術 子宮頸がん(FIGOによる臨床進行期分類がⅠB期以上及びⅡB期以下の扁平上皮がん又はFIGOによる臨床進行期分類がⅠA2期以上及びⅡB期以下の腺がん)であって、リンパ節転移及び腹腔内臓器に転移していないものに限る。	東京医科大学病院	平28.4.1	令6.9.30	100	101	12	5
25	自家嗅粘膜移植による脊髄再生治療 胸髄損傷(損傷後十二日以上経過してもなお下肢が完全な運動麻痺(米国脊髄損傷学会によるAISがAである患者に係るものに限る。))を呈するものに限る。	大阪大学医学部附属病院	平28.4.1	令4.3.31	10	7	0	1
26	陽子線治療 肝細胞がん(初発のものであって、肝切除術、肝移植術、エタノールの局所注入、マイクロ波凝固法又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が七点未満のものに限る。)	北海道大学病院	平28.6.1	令7.5.31	180	30	10	-
27	重粒子線治療 肝細胞がん(初発のものであって、肝切除術、肝移植術、エタノールの局所注入、マイクロ波凝固法又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が七点未満のものに限る。)	群馬大学医学部附属病院	平28.6.1	令10.6.1	130	24	4	8
28	重粒子線治療 非小細胞肺癌(ステージがⅠ期であって、肺の末梢に位置するものであり、かつ肺切除術が困難なものに限る。)	九州国際重粒子線がん治療センター	平28.7.1	令9.6.30	150	45	4	11
29	ゲムシタピン静脈内投与及び重粒子線治療の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、TNM分類がT4のものに限る。)	量子科学技術研究開発機構 QST 病院	平28.10.1	令5.9.30	82	35	3	9
30	ゲムシタピン静脈内投与、ナブパクリタキセル静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う膵臓がん	東京大学医学部附属病院	平28.10.1	【導入相試験】 令2.3.9 【探索相試験】 令6.9.9	【導入相試験】6～18例 【探索相試験】35例	【導入相試験】12例 【探索相試験】3例	0	6
31	治療抵抗性の子宮頸がんに対するシスプラチンによる閉鎖循環下骨盤内非均衡灌流療法 子宮頸がん(術後に再発したものであって、同時化学放射線療法に不応かつ手術が不能なものに限る。)	日本医科大学付属病院	平28.11.1	令2.4.18	27	0	0	-
32	ヒドロキシクロロキン療法 関節リウマチ(既存の合成抗リウマチ薬による治療でDAS28が二・六未満を達成できないものに限る。)	慶應義塾大学病院	平28.11.1	令3.8.31	120例 (HCQ群60例、ヒストリカルコントロール群60例)	HCQ群 60例	0	30
33	水素ガス吸入療法 心停止後症候群(院外における心停止後に院外又は救急外来において自己心拍が再開し、かつ、心原性心停止が推定されるものに限る。)	慶應義塾大学病院	平28.12.1	令6.12.1	360	65	20	22
34	トラスツマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法 乳房外パジェット病(HER2が陽性であって、切除が困難な進行性のもの)であり、かつ、術後に再発したもの又は転移性のものに限る。	慶應義塾大学病院	平29.2.1	令3.9.1	13	13	0	5
35	術後のカベシタピン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法 小腸がん(ステージがⅠ期、Ⅱ期又はⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院	平29.4.1	令13.11.9	150	43	19	12
36	S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。)	関西医科大学附属病院	平29.4.1	令6.5.31	180	17	0	4
37	S-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん	名古屋大学医学部附属病院	平29.4.1	令3.7.1	50	53	7	13
38(1)	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。)(陽子線治療を実施する施設)	国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院	平29.6.1	令11.12.19	290	76	20	10
38(2)	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。)(外科的治療を実施する施設)	国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院	平29.6.1	令11.12.19	290	76	20	-
39	131I-MIBGを用いた内照射療法 神経芽腫(COGリスク分類又はINRG治療前分類で高リスク群と診断されるものであって、化学療法及び造血幹細胞移植が行われる予定のものに限る。)	国立大学法人金沢大学附属病院	平29.7.1	令2.12.31	8	8	0	2
40	シクロホスファミド静脈内投与及び自家末梢血幹細胞移植術の併用療法 全身性強皮症(ステロイド又は少なくとも一種類のステロイド以外の免疫抑制剤に抵抗性を有するものに限る。)	九州大学病院	平29.8.1	令4.7.31	12	9	0	6
41	自家骨髄単核球移植による下肢血管再生治療 バージャー病(従来の治療法に抵抗性を有するものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	京都府立医科大学附属病院	平29.10.1	令4.9.30	25	16	4	4
42	ニボルマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法 進行再発非小細胞肺癌(ステージがⅢB期、ⅢC期若しくはⅣ期又は術後に再発したものであって、化学療法が行われたものに限る。)	横浜州市市民病院	平29.11.1	令4.7.6	350	131	32	40
43	術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院	平30.2.1	令10.3.30	880	332	28	297
44	TRPV2阻害薬経口投与療法 心不全(十三歳以上の患者に係るものであって、筋ジストロフィーによるものに限る。)	独立行政法人国立病院機構大阪 刀根山医療センター	平30.2.1	令5.3.31	20	35	14	20
45	重粒子線治療 直腸がん(術後に再発したものであって、骨盤内に限局するものに限る。)	量子科学技術研究開発機構 QST 病院	平30.6.1	令6.5.31	32	26	5	14
46	マルチプレックス遺伝子パネル検査 固形がん(根治切除が不可能又は治療後に再発したものであって、治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限る。)	東京大学医学部附属病院	平30.8.1	令2.1.31	200	200	12	71

告示 番号	先進医療技術名	申請医療機関名	適用年月日 (再掲)	終了予定日	計画時患者 数	登録症例数	協力医療機 関数	年間実施件 数 (令和元年7 月～令和2年 6月までの実)
47	マルチプレックス遺伝子パネル検査 難治性固形がん(ステージがⅢ期若しくはⅣ期で手術が不能なもの又は治療後に再発したものであって、治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限り、肉腫を除く。)	大阪大学医学部附属病院	平30.10.1	令3.8.31	200	224	13	91
48	腎悪性腫瘍手術により摘出された腎臓を用いた腎移植 末期腎不全(慢性維持透析が困難なものに限る。)	医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院	平31.2.1	令11.6.30	42	0	1	-
49	切除支援のためのマイクロコイル併用気管支鏡下肺マッピング法 微小肺病変	東京大学医学部附属病院	平31.2.1	令3.9.30	65	65	7	49
50	反復経頭蓋磁気刺激療法 薬物療法に反応しない双極性障害の抑うつエピソード	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院	平31.3.1	令5.3.31	96	5	2	5
51	自己軟骨細胞シートによる軟骨再生治療 変形性膝関節症(軟骨欠損を伴うものであって、高位脛骨骨切り術の適応となるものに限る。)	東海大学医学部附属病院	平31.4.1	令10.12.31	20	2	0	-
52	自家末梢血CD34陽性細胞移植による下肢血管再生療法 下肢閉塞性動脈硬化症(疼痛又は潰瘍を伴う重症虚血を呈するものであって、維持透析治療を行っているものに限る。)	医療法人沖繩徳洲会 湘南鎌倉総合病院	令1.7.1	令6.6.30	16~20	1	0	1
53	不可逆電気穿孔法 肝細胞がん(肝内における長径三センチメートル以下の腫瘍が三個以下又は長径五センチメートル以下の腫瘍が一個であって、肝切除術又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が九点以下のものに限る。)	東京医科大学病院	令1.8.1	令9.7.23	45	3	0	3
54	ブロープ型共焦点レーザー顕微内視鏡による胃上皮性病変の診断 胃上皮性病変	国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院	令1.11.1	令4.5.17	250	11	1	11
55	ボツリヌス毒素の膀胱内局所注入療法 神経因性排尿筋過活動による膀胱機能障害(五歳以上十八歳未満の患者に係るものに限る。)	東京都立小児総合医療センター	令2.1.1	令4.9.30	9~12	0	0	-
56	イマチニブ経口投与及びベムプロリズマブ静脈内投与の併用療法 進行期悪性黒色腫(KIT遺伝子変異を有するものであって、従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	慶應義塾大学病院	令2.2.1	令7.10.31	22	0	0	-
57	偽腔拡大に対する血管内治療 大動脈解離(術後に偽腔が拡大したものに限り。)	国立循環器病研究センター	令2.2.1	令6.3.31	15	3	0	3
58	糞便微生物叢移植 再発性Clostridioides difficile関連下痢症・腸炎	滋賀医科大学医学部附属病院	令2.3.1	令6.6.30	23	0	0	-
59	周術期デュルバルマブ静脈内投与療法 肺尖部胸壁浸潤がん(化学放射線療法後のものであって、同側肺門リンパ節・縦隔リンパ節転移、同一肺葉内・同側の異なる肺葉内の肺内転移及び遠隔転移のないものに限る。)	国立研究開発法人国立がん研究センター東病院	令2.3.1	令12.2.28	84	0	3	-
60	マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行性再発固形がん(非小細胞肺癌、乳がん、胃がん、大腸がん、膵がん又は胆道がんに限る。)	国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院	令2.4.1	令5.12.14	200	2	0	2
61	肺動脈自律神経叢除神経療法 肺高血圧症(薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター	令2.6.1	令6.12.31	20	0	0	-

※ 記載のない先進医療技術については、既に先進医療から削除されたものであること。(平成2年6月30日時点)

※ 終了予定日・計画時患者数は、医療機関より提出された実績報告(平成2年6月30日時点)から抽出したものであり、実施計画の変更状況等の反映を踏まえ、今後変更する可能性がある。

令和2年12月3日第93回先進医療会議資料より修正

1年間(令和元年7月1日～令和2年6月30日)の実施件数が
0件である先進医療技術(先進医療A)に係る医療機関の今後の対応方針等

告示 番号	技術名	実施医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 平成30年7月～令和元年6月ま での実績 (実施可能であるすべての医療 機関の実績)
8	末梢血単核球移植による血管再生治療	三重大学医学部附属病院	患者の病変の状態が比較的安定していたため	今後も患者の病変の様子を注意深く観察していく。	0件
10	培養細胞によるライソゾーム病の診断	大阪市立大学医学部附属病院	該当患者なし	現状、本検査に関しては、医療法に準拠した検査体制を確保することが難しく実施が不可能な状態であるため、今後、医療法に準拠した検査体制の確立が可能かを検討する。	0件
11	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	島根大学医学部附属病院	平成31年2月以来、本院では先進医療の実施を中止していた。その後、当該先進医療技術については令和2年3月に再開したが、適応する患者の発生がなかったため、令和元年7月1日から令和2年6月30日における実績は0件となった。	検体検査に係る先進医療の共同実施により、他医療機関と協力することで、実施数増加を目指す。	0件

※「-」は昨年度未実施
の医療技術

1年間(令和元年7月1日～令和2年6月30日)の実施件数が
0件である先進医療技術(先進医療B)に係る医療機関の今後の対応方針等

告示 番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 平成30年7月～令和元年6月 までの実績 (実施可能であるすべての医 療機関の実績)
1	パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	埼玉医科大学国際医療センター	本試験は既に症例登録期間が終了しているため。	該当しない。	0件
2	重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病に対する脳死ドナー又は心停止ドナーからの膵島移植 重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病	福島県立医科大学附属病院	新規に膵島移植を希望する患者が発生せず、現在、膵島移植希望の登録者がいないため。 また、当機関の担当である南東北地域の一部と北関東の一部でドナーの発生がなかったため。	独立データモニタリング委員会での審議の結果、早期(有効)中止が勧告されたため、現在先進医療取り下げの手続きを行っている。 膵島移植は保険適応となり、今後も糖尿病内科と連携して、腎機能の悪化を伴わないが血糖コントロールが不良なⅠ型糖尿病患者を対象として、膵島移植に関する広報に努める。また、ドナーアクションプログラムを展開し、啓蒙活動を継続する。	2件
4	コレステロール塞栓症に対する血液浄化療法 コレステロール塞栓症	独立行政法人地域医療機能推進機構 仙台病院	登録期間が終了しているため		6件
5	NKT細胞を用いた免疫療法 頭頸部扁平上皮がん(診断時のステージがⅣ期であって、初回治療として計画された一連の治療後の完全奏功の判定から八週間以内の症例(当該期間内に他の治療を実施していないものに限る。)に限る。)	千葉大学医学部附属病院	先進医療技術審査部会において指摘を受けた事項について、特定認定再生医療等委員会で審査予定であったが、新型コロナウイルスの影響により委員会が開催されなかったため研究が実施できなかった。	7月開催の特定認定再生医療等委員会で、計画変更が承認されたため、今後院内会議を経て、先進医療に係る変更手続きを行った上で研究を実施する。	0件

告示番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 平成30年7月～令和元年6月 までの実績 (実施可能であるすべての医 療機関の実績)
6	C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変に対する自己骨髄細胞投与療法 C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変(Child-Pugh分類による点数が七点以上のものであって、従来の治療法(肝移植術を除く。)ではその治療に係る効果が認められないものに限る。)	山口大学医学部附属病院	今般のC型肝炎ウイルスに対する治療法の進歩により、C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変患者の絶対的減少とともに、C型非代償性肝硬変患者に対する抗ウイルス治療が承認となったため、本研究の対象患者が減少していることが考えられるため。	病院・研究室のホームページや学会発表等でも引き続き情報発信を行い、患者のリクルートを進めていく。	0件
7	経皮的乳がんラジオ波焼灼療法 早期乳がん(長径が一・五センチメートル以下のものに限る。)	国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院	平成29年11月に予定症例数到達により、症例登録を終了したため		0件
8	インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	国立研究開発法人国立がん研究センター東病院	2019年3月に患者登録終了した。本報告期間において、当院の「保険外併用療養費の対象患者」は治療終了などの理由によりいない。	本試験は2019年3月に患者登録終了し、追跡期間中である。	11件
11	FDGを用いたポジトロン断層撮影によるアルツハイマー病の診断 アルツハイマー病	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター	登録期間が既に終了しているため。	試験終了のため、2020年6月2日先進医療に係る届出書を取下げ済み。	34件
12	全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロビドグレル硫酸塩、ピタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腿骨頭壊死発症抑制療法 全身性エリテマトーデス(初回の副腎皮質ホルモン治療を行っている者に係るものに限る。)	九州大学病院	該当する症例がいなかったため。	周囲の施設に呼びかけを継続します。	1件
14	腹膜偽粘液腫に対する完全減量切除術における術中のマイトマイシンC腹腔内投与及び術後のフルオロウラシル腹腔内投与の併用療法 腹膜偽粘液腫(画像検査により肝転移及びリンパ節転移が認められないものであって、放射線治療を行っていないものに限る。)	国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院	2017年2月に予定症例数の75例に達したため、それ以降の新規登録を終了しました。	これまでに実施した75症例に対して、5年間の追跡調査の期間に入っておりますので、調査を継続中です。	0件

告示番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 平成30年7月～令和元年6月 までの実績 (実施可能であるすべての医療機関の実績)
16	リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法 特発性ネフローゼ症候群(当該疾病の症状が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、難治性頻回再発型又はステロイド依存性のものに限る。)	神戸大学医学部附属病院	すでに登録予定期間を終了したため。	特になし。	18件
17	周術期カルペリチド静脈内投与による再発抑制療法 非小細胞肺癌(CT撮影により非浸潤がんと診断されたものを除く。)	大阪大学医学部附属病院	本試験の症例登録は、2015年9月1日からであり、現在の登録数は335症例である。10施設で多施設共同研究を研究しているが、脳梗塞発生による安全性検討の為に登録一時中断が2回(2016年7～8月、2017年4～5月)あり、独立安全性モニタリング委員会での審議等を経て実施計画書を改訂し、安全性を確保した上で再開したが、2017年7月の弊院倫理審査委員会において、本試験における「SAEの倫理審査委員会への報告遅延」等に対して審議がなされ、適切な体制の再構築の策定まで、研究実施一時中断が決定された。その後、早期の再開を目指し弊院未来医療開発部と連携を図り、研究責任医師および研究関係者と共に体制整備に努めていた。研究再開に向けて協議を重ねていたが、中断期間の長期化や統計学的な観点など諸事情を検討した結果、今後の症例数集積及び当初の予定症例数への到達が極めて難しい状況と判断せざるを得ないと判断し、現在の登録数335例についての観察結果を基に効果を評価することに実施計画書を変更し、2018年11月9日に認定臨床研究審査委員会(大阪大学臨床研究審査委員会)にて承認され、2019年2月12日に先進医療における変更申請が承認された。最終の症例登録より2年が経過し、現在主要評価項目である術後2年無再発生存率を解析中である。	新たな被験者の組み入れは終了し、登録された335例についての観察を引き続き行い、その結果を基に効果を評価することとする。	0件
18	コラーゲン半月板補填材を用いた半月板修復療法 半月板損傷(関節鏡検査により半月板の欠損を有すると診断された患者に係るものに限る。)	大阪大学医学部附属病院	これまで35例の予定症例に対して、11例が登録され、計画書に基づいて、予後調査を実施していた。11例において、試験治療に関連した重篤な有害事象を認めなかった。薬事承認に向けた治験にむけた臨床情報の収集を完了しえたと判断し、先進医療Bを終了し、治験の実施を考慮する。	同左	4件
24	内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術 子宮頸がん(FIGOによる臨床進行期分類がI B期以上及びII B期以下の扁平上皮がん又はFIGOによる臨床進行期分類がI A2期以上及びII B期以下の腺がんであって、リンパ節転移及び腹腔内臓器に転移していないものに限る。)	東京医科大学病院	先進医療による治療を希望する該当患者がいなかった。	目標症例数をすでに達成していることから、リクルート活動はしないため特になし。	32件
26	陽子線治療 肝細胞がん(初発のものであって、肝切除術、肝移植術、エタノールの局所注入、マイクロ波凝固法又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild—Pugh分類による点数が七点未満のものに限る。)	北海道大学病院	期間中に本試験の選択基準を満たし、除外基準に該当しない症例はいなかった。	本試験中止となり、第86回先進医療会議(2020/6/4)で本技術告示取り消しの承認済みである。	4件
31	治療抵抗性の子宮頸がんに対するシスプラチンによる閉鎖循環下骨盤内非均衡灌流療法 子宮頸がん(術後に再発したものであって、同時化学放射線療法に不応かつ手術が不能なものに限る。)	日本医科大学付属病院	2019/1/23に中止となっているため		2件

告示番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 平成30年7月～令和元年6月 までの実績 (実施可能であるすべての医療機関の実績)
33	水素ガス吸入療法 心停止後症候群(院外における心停止後に院外又は救急外来において自己心拍が再開し、かつ、心原性心停止が推定されるものに限る。)	慶應義塾大学病院	該当期間に搬入された院外心肺停止患者は46例であり、蘇生した患者は12例であった。蘇生した12例のうち、選択基準に合致した症例は3例であったが、その3例全てが除外基準に該当したため実施件数は0例となった。集中治療室が満床の時間帯が発生しており、その時間帯は院外心肺停止患者の応需ができないこと、さらに2020年4月より新型コロナウイルス感染症の影響により救急車応需を制限をしていることが搬入件数の減少に影響している。	集中治療室の後方ベッドコントロールは当院の重要課題であり、改善に向けて協力していく。救急車応需制限が解除され次第に24時間オンコール体制を敷き、該当症例に対して迅速に対応できる体制にする。	32件
48	腎悪性腫瘍手術により摘出された腎臓を用いた腎移植 末期腎不全(慢性維持透析が困難なものに限る。)	医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院	2019年1月31日の告示を受けて、試験実施準備を進めていたが、同年3月31日をもって研究総括責任者(当院の研究実施責任医師も兼務)が退職となった。以後、本技術の実施可能な実施責任医師の要件を満たした医師が不在であり、その後も医師のリクルート活動を進めたが、要件を満たす医師の獲得には至らず、結果的にこの期間は試験が中断していたため、0件となった。	2020年6月11日開催の先進医療技術審査部会では、試験計画の変更を願い出て内容について承認を得ている。2020年7月1日に研究の再開報告及び研究実施計画書の変更(実施体制の変更)について倫理審査委員会により実施可の承認を得ている。2020年7月29日には移植実施施設の施設追加についても倫理審査委員会から承認を得ている。現在(2020年8月19日時点)は、追加した移植実施施設からの先進医療実施届出書の提出準備を行っており、今後、先進医療技術審査部会の承認を得た後に、更なる実施可能な体制構築を推進していく。	0件
50	反復経頭蓋磁気刺激療法 薬物療法に反応しない双極性障害の抑うつエピソード	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院	該当なし	該当なし	0件
51	自己軟骨細胞シートによる軟骨再生治療 変形性膝関節症(軟骨欠損を伴うものであって、高位脛骨骨切り術の適応となるものに限る。)	東海大学医学部付属病院	再生医療等安全性確保法改定の対応により本臨床研究の開始が2019年12月25日となり、その後4月に症例登録があったが、COVID-19の影響による緊急事態宣言発令のため、1例目の実施が延期となったため。	2020年8月現在、症例登録が4件ある。1症例目に関しては、7月29日に細胞シートの移植を実施している。2症例目、3症例目に関して9月に実施を予定しており、現在は順調に症例登録並びに細胞シート移植の実施が予定されている。	0件
55	ボツリヌス毒素の膀胱内局所注入療法 神経因性排尿筋過活動による膀胱機能障害(五歳以上十八歳未満の患者に係るものに限る。)	東京都立小児総合医療センター	先進医療告示日後、東京都において東京都立病院条例施行規則の改正手続きを行い、2020年4月より実施可能となり、被験者の募集していたが、新型コロナウイルスの影響により応募者がなかった。2020年7月に1例目の症例登録を果たした。	新型コロナウイルスの流行状況も勘案しつつ、対象者への広報を拡大することで、症例登録を促進させる。	-
56	イマチニブ経口投与及びペムプロリズマブ静脈内投与の併用療法 進行期悪性黒色腫(KIT遺伝子変異を有するものであって、従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	慶應義塾大学病院	2020年1月の部会で承認された後、プロトコルの修正申請をCRB及び先進医療技術審査部会で審議頂き承認されるまでに約5ヶ月を要した。薬剤無償提供にかかる契約締結が済んでおらず、試験開始に至っていない。2020年9月の開始を予定している。	契約締結間近であり、締結され次第、試験を開始予定である。	-
58	糞便微生物叢移植 再発性Clostridioides difficile関連下痢症・腸炎	滋賀医科大学医学部附属病院	当該先進医療は本年3月1日に算定開始となったが、その後社会的な新型コロナウイルス感染拡大により、積極的に患者を受け入れなかったため。	4月には2医療機関が共同研究機関として研究計画に新規参画し、現在共同研究機関の先進医療の申請を行っている。今年度中には4医療機関(滋賀医大・藤田医大・金沢大・順天堂大)での実施が可能となる予定であり、それにより実施件数の拡大が見込まれる。 また、当該先進医療の実施に伴う新型コロナウイルス感染対策として、ドナーに対するPCR検査を実施していることを当病院HPIに記載している。	-
59	周術期デュルバルマブ静脈内投与療法 肺尖部胸壁浸潤がん(化学放射線療法後のものであって、同側肺門リンパ節・縦隔リンパ節転移、同一肺葉内・同側の異なる肺葉内の肺内転移及び遠隔転移のないものに限る。)	国立研究開発法人国立がん研究センター東病院	当院は、2020年3月1日に追加協力医療機関として承認されたが、現在、申請医療機関において、試験薬提供企業と薬剤の輸入、出荷判定など準備をすすめており、まだ登録開始にいたっていない。	すみやかに手続きを進め、登録開始となった際は、積極的に該当患者の集積を図る。	-
61	肺動脈自律神経叢除神経療法 肺高血圧症(薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	国立循環器病研究センター	令和2年6月1日に告示後、厳密な管理体制で開始すべく実施体制整備を行い、対象症例のリクルート開始が令和2年7月からとなったため実施件数は0となった。	現在対象症例のリクルートを開始しており、同意取得が取れ次第、順次症例登録を行い、試験治療を開始する予定である。	-

※「-」は昨年度未実施の医療技術

暫定的に先進医療 A として実施している技術について

1. 背景及び現状

- 平成 20 年の先進医療告示第 2 項各号に掲げられた先進医療のうち、平成 24 年 11 月 30 日の先進医療会議において先進医療 B へ振り分けることとされた技術については、暫定的に先進医療 A（以下、「暫定 A」という。）として実施しているところ。
- 暫定 A の取扱いについては、平成 29 年 1 月 12 日に開催した本会議において審議され、以下のように決定した。

- ・ 平成 29 年 3 月 31 日までに先進医療 B への移行できなかった技術については、平成 29 年 4 月 1 日をもって先進医療告示から取り消すこととしていたが、現在、同技術を継続して実施している患者が存在している期間は告示からの取り消しを猶予してはどうか。
- ・ 新規患者の組み入れについては認めないままとし、猶予期間後の先進医療 B への移行については各医療機関の判断に任せてはどうか。
- ・ 実施している患者がいなくなった場合には、医療機関より事務局に連絡することとし、当該医療機関についてはホームページ上から削除し、全ての医療機関が削除された時点でその技術を先進医療告示から取り消すこととしてはどうか。

2. 暫定 A として実施している技術の現状について

- 暫定 A として実施している技術については、新規患者の組み入れがないこと及び継続中の患者の有無について、事務局が定期的に確認をしており、令和 2 年 11 月 30 日時点の状況は以下のとおりである。
- 継続患者数が 0 になった技術に関しては、削除の手続きを適時行う。

告示番号	先進医療技術名	令和元年 11 月 1 日時点	令和 2 年 11 月 30 日時点
8	末梢血単核球移植による血管再生治療	1	1
9	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	12	12